

令和5年度 学校図書館基本計画・評価シート

足立区立 伊興中学校 校長 千葉 千登勢

1 学校教育目標

- 進んで学ぶ生徒
- 心豊かな生徒
- たくましい生徒

2 学校図書館の目標・ねらい 一身に付けさせたい資質・能力、意欲・態度一

- ① 学校図書館を活用し、読書の幅を広げ、読書力を上げるとともに心豊かな生徒を育てる。
- ② 学校図書館を効果的に活用し、主体的に学び、探究する生徒を育てる。
- ③ 情報の取捨選択を行い、自分の考えを深め、まとめる力を育てる。

3 学校図書館の現状（令和4年度末）

蔵書状況	① 蔵書数 16,781冊（蔵書基準冊数 14,240冊）／蔵書率 117%									
	② 新規購入図書 572冊／廃棄図書 459冊／増減冊数 113冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合	2%	3%	9%	13%	10%	5%	3%	12%	7%	36%
*国基準	6%	5%	16%	10%	15%	6%	5%	8%	6%	23%
利活用の状況	① 開館時間：授業時、昼休みから17：30まで（前年度からの変更 あり・ なし ）									
	② 生徒一人あたりの年間平均貸出冊数 6冊（前年度末： 6冊）									
	③ 学校図書館利用率 4.5%（前年度末： 4.5%）									

（令和5年度末）

蔵書状況	① 蔵書数 16,772冊（蔵書基準冊数 14,240冊）／蔵書率 117%									
	② 新規購入図書 776冊／廃棄図書 785冊／増減冊数 9冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合	2%	3%	8%	13%	10%	5%	3%	12%	8%	36%
*国基準	6%	5%	16%	10%	15%	6%	5%	8%	6%	23%
利活用の状況	① 開館時間：12:30～17:30（前年度からの変更 あり・ なし ）									
	② 生徒一人あたりの年間平均貸出冊数 5冊（前年度末： 6冊）									
	③ 学校図書館利用率 7.8%（前年度末： 4.5%）									

4 目標達成に向けた今年度の重点指導事項・具体的取り組み

第1学年	① 読書に親しみ、本を読む習慣をつける。	
	② 調べる学習を通して、正しく情報を読み取りまとめる力を育む。	
今年度の成果目標	③ 図書館の活用の仕方を理解し、地域図書館でも活用できる力を育てる。	
	今年度の成果目標	達成基準
① 休み時間等に学校図書館や学級貸出の書籍を活用し、読書を行うことができる。	①生徒一人あたりの年間貸出数 10冊	
② 複数の書籍から情報を収集し、比較・検討する中で、取捨選択し、まとめることができる。	②校外学習のまとめ（新聞やレポート）提出率 90%以上	
③ 書籍の配架方法（日本十進分類法）を理解し、図書館を活用することができる。	③探究活動の授業を5回実施	

目標達成状況	
<p>①生徒一人あたりの年間貸出冊数は6冊と目標を達成することができなかつた。利用率も低く、利用者を増やすことが求められる。一方で学級文庫として配架した学校図書館の書籍を読む姿が見られた。</p> <p>②学校図書館を活用し、総合の時間にSDGsと職業調べを行い、情報の取捨選択をし、内容をまとめ発表することができた。調べる学習コンクールは90%以上の生徒が参加し、代表作は入選することができた。</p> <p>③十進分類表を理解し、活用するところまでは至らなかつた。図書室の広さと人数の関係で、授業において5回使用することもできなかつた。授業の中では事前に貸し出した書籍を活用して調べ学習を行っている姿が見られた。</p>	
第2学年	<p>① さまざまなジャンルの書籍に親しみ、読書力を上げる。</p> <p>② 複数の書籍から情報を取り入れ、取捨選択する力を育む。</p> <p>③ 図書館の活用の仕方を理解し、地域図書館でも活用できる力を育てる。</p>

今年度の成果目標	達成基準
<p>① 休み時間等に学校図書館や学級貸出の書籍を活用し、読書することができる。</p> <p>② 複数の書籍から情報を収集し、比較・検討する中で、取捨選択し、まとめることができる。</p> <p>③ 書籍の配架方法（日本十進分類法）を理解し、図書館を活用することができる。</p>	<p>①生徒一人あたりの年間貸出数 10冊</p> <p>②校外学習のまとめ（新聞やレポート）提出率 90%以上</p> <p>③探究活動の授業を 5回実施</p>

目標達成状況	
<p>①生徒一人あたりの貸出冊数は6冊と少なく、達成基準に満たなかつた。しかし、学級文庫として配架した学校図書館の書籍を読む姿が見られた。校内で行った読書ウィークでは、持参した書籍を読む生徒も多数見られた。</p> <p>②学校図書館を活用し、上級学校調べや鎌倉校外学習の事前学習を行い、情報の取捨選択をし、内容をまとめ発表することができた。調べる学習コンクールは90%以上の生徒が参加し、代表作は入選することができた。</p> <p>③図書館の利用率は少なく、利用者が偏っている現状である。Chromebookが配布されたこともあり、授業においても5回使用することができなかつた。</p>	

第3学年	<p>① 発達段階に応じた内容を選び、読書を通じて考えを深め、広げる意欲を育てる。</p> <p>② 情報を比較・検討する中で取捨選択し、自分の考えを表現する言語力を育てる。</p> <p>③ 図書館の活用の仕方を理解し、地域図書館でも活用できる力を育てる。</p>
-------------	---

今年度の成果目標	達成基準
<p>① 休み時間等に学校図書館や学級貸出の書籍を活用し、読書することができる。</p> <p>② 課題に応じた書籍を選択し、必要な情報をもとに自分の考えをまとめ、表現することができる。</p> <p>③ 書籍の配架方法（日本十進分類法）を理解し、図書館を活用することができる。</p>	<p>①生徒一人あたりの年間貸出数 10冊</p> <p>②校外学習のまとめ（新聞やレポート）提出率 90%以上</p> <p>③探究活動の授業を 5回実施</p>

目標達成状況	
<p>①受験勉強を第一に考え読書が二の次になっていたこともあり、生徒一人あたりの貸出冊数は6冊と少なかった。しかし、図書室で受験勉強をする姿が見られ、「学習センター」としての機能は果たしていた。</p> <p>②学校図書館を活用し、修学旅行事前学習やまとめを行い、情報の取捨選択をし、内容をまとめ発表することができた。</p> <p>③学校図書館のみならず、地域図書館において書籍を借り、情報をまとめることができた。</p>	

5 学校図書館環境整備に関する取組計画・方針及び成果・効果	
取組計画・方針	成果・効果
<p>【蔵書・配架等に関すること】</p> <p>① 国基準をクリアできるよう、各分類の足りない書籍を購入する。</p> <p>② POP作成や読書感想文等の国語の課題とのつながりを持た</p>	<p>①生徒のリクエストに応え、書籍購入を行ったが国基準を超えない分類が未だにある現状である。国基準を超えない各分類の書籍においても、生徒が読みやすいものを選択し、購入をしていく。</p>

<p>せ、発達段階に応じた書籍を増やす。</p>	<p>②図書委員によるPOP作成およびPOPの紹介によって生徒に興味をもたせることができた。</p>
<p>【学校図書館支援員との連携・協働】</p> <p>① 4月に支援員による学校図書館オリエンテーションの実施を通し、生徒に周知するとともに、教員への周知を徹底する等、連携・協働に取り組む。</p> <p>② 調べる学習や校外学習、授業等で、必要な資料の相談を積極的に行い、地域図書館を活用する。</p> <p>③ 年度末に未返却がないよう、連携して呼びかけ、回収率を100%にする。</p>	<p>①支援員と教員の協力により、図書委員会を主体とした「読書ウィーク」を実施することができた。今後も継続し、読書の習慣化を図っていく。</p> <p>②調べる学習コンクールや校外学習をはじめとする調べ学習において支援員と協力し、学校図書館を活用することができた。学校図書館から地域図書館への連携も深めていきたい。</p> <p>③未返却がないよう、支援員からの通達、委員会からの呼びかけや取り立てを通して未返却を防ぎ、回収することができた。</p>
<p>【その他】</p> <p>① 学校図書館だよりの発行や図書委員の仕事の充実を図ることにより、図書室の利用率を上げる。</p> <p>② ビブリオバトル等の読書の幅を広げる活動を教科の中に取り入れる。</p> <p>③ 教員の図書室の利用率向上を図る。</p>	<p>①学校図書館だよりや、POP作成およびPOP紹介により、生徒の興味を惹くことができた。また、調べる学習コンクールの作品を校内作品展で展示することにより、「知りたい」という気持ちを育むことができた。</p> <p>②ビブリオバトルを取り入れることができなかった。ビブリオバトルという形にこだわることなく本紹介など機会を作っていきたい。</p> <p>③教員の図書室利用はさして変わらないので、利用率を上げるための方法を考える。</p>

6 学校図書館運営全体に関する自己評価（成果・課題・改善の方向性等）

図書館司書と図書担当教員が協力しながら読書活動の推進に取り組んだ。図書委員会の活動が活発で、図書館の壁に月ごとに掲示物を作成したり、新入生向けの対面式では動画を撮影して、図書利用について分かりやすく発表したり、図書館だよりやPOP作成およびPOP紹介により生徒の興味を引くことができるようになるなど、読書推進の啓発活動に力を入れることができた。調べる学習コンクールでの入選者が複数いることや校外学習などの調べ学習で、ネットだけでなく学校図書館利用も多くあるため、図書室利用率をさらにあげていくために国語科を中心に学校図書館オリエンテーションの実施を行う。また、学校司書スーパーバイザーの活用により、新規購入図書数を増やし、一人年間10冊の貸出をめざす。

7 学校図書館の取り組みに対する評価・要望等（学校関係者から）

図書館司書が年度当初に1年生を対象として丁寧にオリエンテーションをやってくださるおかげで年間を通して組織的な図書館運営ができています。

また、調べる学習コンクールや各教科の授業内における調べ学習、校外学習の事前学習の場面では、図書館司書が必要な書籍を事前に準備してくれる等、計画的な図書館の運用もできています。